

卒2 訪問看護ステーション研修

卒後2年目研修の最大の山場である訪問看護ステーション研修を、6月～7月にかけて3日間実施しました。研修は、おおむた訪問看護ステーション・訪問看護ステーションさかきで行いました。看護科卒後2年目の目標は「患者を『生活と労働の場』から見る視点を養い、人間観・看護観を高める」です。この研修を通して、2年目ナースは何を学ぶことができたのでしょうか・・・。

研修前の訪問看護に対するイメージや意気込みは...

病棟から退院された患者様が自宅でどのような療養生活を送っているのか知りたい。
ひとりで判断するので、知識・技術が必要で、責任がある大変な仕事だと思う。

...等が出されました。

3日間の研修を終え、病棟に帰ってきた受講生は「退院した患者さんを訪問して嬉しかったです、自宅では表情が違いましたよ。やっぱり家はいいですね」と感動し、大きな収穫を得ることができました。

後日、研修のまとめをグループワーク形式で行いました。そこには、訪問看護ステーションの所長さんも参加していただき、意見交換を行いました。充実した振り返りをする事が出来たと思います。

【研修レポートより抜粋】

訪問看護ステーション研修で学んだこと

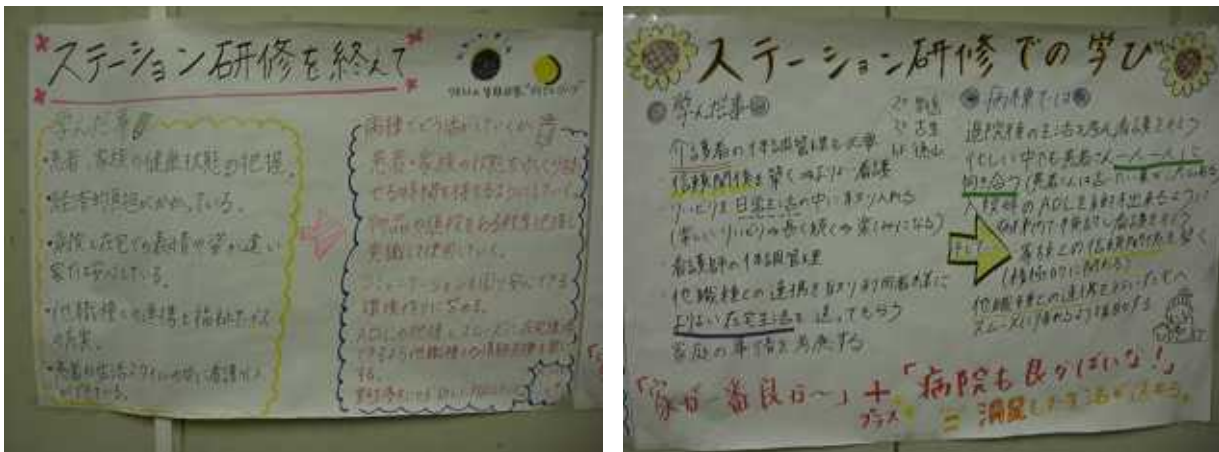
病棟とは違い患者様やご家族の希望・要望を一番に考えて、利用時間内で看護を行っていた。患者様だけでなく、ご家族の身体的、精神的状況にも目を向けて看護を行う必要があると感じた。要介護認定の項目で、自立歩行で移動できるのも、はって移動するのも「移動できる」とみなれている現状を知り驚いた。

ターミナル期の患者様がとても元気に買い物に行っており、住み慣れた家で暮らすのは、心や体にとってもいいことだと感じた。

病棟で活かしていきたいこと

病棟では煩雑な業務で、一人の患者様とじっくり話をすることができていない。信頼関係を作り、早い段階から患者様の思いや希望を知ることが大切。患者様とともにゴールを決め、退院に向けて援助したいと思った。

今回の研修を通して受講生たちは、一人の患者様をもっと知りたい、希望を叶えたい、という思いが強くなったように思います。個別性のある看護の展開につながるのではないかと期待が膨らみました。



グループワークでのまとめ